

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 紀洋会	代表者	岡本 のぶ子	法人・事業所の 特徴	利用者の第二の我が家となるように、家庭的な雰囲気居心地よく安らぎの場を提供することを心がけている。眺めの良い明るい開放的な立地にあり、幼稚園や小学校と隣接している為、登下校の見守り活動や行事を通して地域との関わりを大切にしている。利用者のリクエストや季節に合わせた手作りの料理を提供している。セラピストや音楽療法士が利用者の様子を集団活動や個別支援など継続して関わっている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 けやきの郷	管理者	橋本 明美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	1人	1人	0人	2人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 館内の掲示物で職員紹介のコーナーを作り、職員の顔と名前を覚えてもらう 申し送り回覧等に捺印欄を作り声かけ係を作る。 次年度も継続していく。	<ul style="list-style-type: none"> 職員の全体写真を掲示している 申し送りや回覧物などを全員が確認できたかどうかを調べる、個々の捺印欄のチェック係を決めた。全員が確認できるよう声掛けを行い情報の共有を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内の介護以外にも目を向けて振り返り対策を練っていることが分かった 職員に変動がない事が分かった 地域との連携もとれている事が分かる。地域での催しで職員を見かけることも多く、地域の人も職員の顔が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 申し送り、回覧等の捺印欄、チェック係の声かけを次年度も継続していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 園芸や季節の飾り作りを、介護度にあわせて作業してもらえるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の利用者のできる作業を理解し、朝の入浴の待ち時間や昼食後の休憩時間を有効に使って作業していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 中の道に看板が無いので玄関まで来ないと事業所の名前が分からない。 利用者や家族はけやきの郷を知っているが、知らない人はどんな事業所なのか分からない。 事業所を訪ねたときは利用者も迎えてくれる。いつも事業所は開放されている。 不快な匂いはない。食事を作っている匂いなど、利用者には刺激になっていい。 いつも明るく開放的であるが西日（南側）が入りすぎてカーテンを閉めているのがもったいない。 季節ごとの景色がフロアから見え立地が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物で緑のカーテンを植栽することで、カーテンを開けて開放的な空間を作る。

<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌は毎月の旬な写真と情報を発信していく。 ・利用者懇談会を定期的を開催し、懇談会で出た事や取り入れた事を運営推進会議の中でフィードバックする。利用者の意見に耳を傾け運営に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌は毎月発行し、地域の人への配布や利用者、家族へ旬の写真を発信することができた。 ・懇談会を開催し、行事や食事メニューに意見をとりいれることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での催しで、けやきの郷の職員をよく見かける。 ・ふれあいサロンや認知症カフェなどで専門職として職員が相談を受けたり、地域住民と交流している事を知っている ・フェイスブックで様子を発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいサロンや認知症カフェ、地域のクリーンデイの参加を継続する。
<p>D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展の出展に向けて製作を続けることや広報誌に地域行事参加のお手伝いの案内掲載を継続して地域との交流を希望する方がおられたら、積極的にすすめていく。 また、ご自身の住む地域との関わりをひらえるようにアンテナを張っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の作品展に出店することを目標に制作をし、職員も利用者も励みになっている。作品展の展示会場で出会いがあり、制作ボランティアをお願いすることができた。 ・認知症カフェで他の地域の民生委員とつながりができ利用者の様子と一緒に見守ることができた。 ・けやき台の敬老会に参加できるように、通いの時間中に敬老会会場までの送迎を行った。敬老会の日程を把握し、家族と本人と調整して参加できるようサポートを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と外出している姿を見る ・全ての利用者の住む地域でのイベントに参加することは難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の住むそれぞれの地域に出向くことは難しい。事業所のある地域との交流を深めていく。 ・介護保険（通いや泊り）を利用し自宅で過ごす時間が減っても、今までの地域の人との関わりが途切れないように気を付けていく。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>運営推進会議で、地域の情報を共有していき、かつ事業所で新しい取り組みをはじめようとする時は、会議の場で報告する。(継続)</p>	<p>困難事例の支援経過などを報告し、助言をもらう場として活用している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同居家族の緊急時の搬送の事例から、市で自治体ごとに配布されていた緊急キットを運営推進委員より再配布してもらい近隣のデイと一緒に活用することができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方と情報を共有できる会議の場となっている 	<p>運営推進会議で、地域の情報を共有していき、かつ事業所で新しい取り組みをはじめようとする時は、会議の場で報告することを次年度も継続していく。</p>

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none">・外の倉庫におむつ類を備蓄しているが、倉庫の鍵は事業所内にある。鍵の置き場所を変更し事業所に入らずに倉庫を開けられるようにする。・地域の防災委員とのAED講習と防災の勉強会、避難訓練は継続して行ない、地域の防災訓練にも参加する。	<ul style="list-style-type: none">・地域の防災訓練や安否確認カードの訓練に参加することができた	<ul style="list-style-type: none">・防災計画などは、今回のような会議が無いと見る機会はない。・防災訓練に地域の防災士の人達との訓練やAEDの講習をしていることは知っている。	<ul style="list-style-type: none">・地域の防災訓練に利用者とともに参加する。・事業所職員間で緊急時対応の確認や訓練を行う。
----------------------------	---	--	--	---